

文・小山内ゼミ 創作ミュージカル上演



カーテンコールでは観客から大きな拍手が送られた



「地震」をテーマにした会話劇。キャスト陣は膨大な量のセリフをこなした



迫力の生演奏。ゼミ生が作曲にも初挑戦した

文学部日本文学文化学 科の小山内伸ゼミが11月1日、生田キャンパスで創作ミュージカル『地震賛歌』を披露した。演劇界で活躍する卒業生の矢内有紗さん(令3文)がゼミ生時代に書いた未発表作を、現ゼミ生が上演。演劇好きの学生や教職員が会場に足を運び、学生たちの伸びやかな演技を明かす。

舞台は架空の大震災から6年後の東京近郊。主人公・マキと友人らの会話を中心に物語は展開していく。演出の中田紗也花さん(3年次)は、「場面転換の少ない会話劇なので、笑いの要素を取り入れるなど起伏をつけることが心掛けた」と狙いを明かす。

観客魅了了 作曲にも初挑戦

演劇の分析手法や劇評の書き方などを学ぶ小山内ゼミでは、その一環としてゼミ生たちが作、演出、出演、スタッフを担うオリジナル作品を、2018年から毎年上演している。今回は初めて作曲にも挑戦し、吉田智美さん(3年次)らが劇中歌を書き上げた。作曲未経験だった吉田さんは、「コードやテンポを教わるところからスタートし、何とか仕上げることができた。歌唱も担当し、自作曲を歌うことができて楽しかった」と振り返る。

主演の南藤星香さん(3年次)は、「ゼミの時間外にも集まって稽古に励んだことが思い出。本番ではちょっとしたハプニングもあったが、無事カーテンコールを迎えることができた」と、晴れやかな表情を見せた。

小山内教授は、「難しい戯曲だが、見て楽しい作品に仕上がった。本番が一番の出来だった」と総括した。

商・渡辺ゼミ × 国コミュ・齋藤ゼミ

SENDAI-Kaffeeで選書イベント



イベントに参加した渡辺ゼミ、齋藤ゼミの学生ら

専大生が選んだ本をキヤンパス内のカフェで紹介するイベント、「選書#専大生がつくる本箱」が9月30日から10月12日まで、神田キャンパスのSENDAI-Kaffeeで開かれた。

商学部 渡辺達朗ゼミと国際コミュニケーション学部 齋藤達哉ゼミのコラボ企画。学生たちは「選書」を通じてマーケティングに挑戦すると

店内に設置した本箱。右は渡辺ゼミ、左は齋藤ゼミが選書を担当した

もに、学部の枠を超えた学修・交流を楽しんだ。商学部の神田移転、国際コミュニケーション学部 コミュニケーション学部の設置以降、こうした合同イベントは初めて。

渡辺ゼミの3年次生16人と齋藤ゼミの2、3年次生12人が、お薦めする約30冊の本を店内の本箱に並べた。気に入った本はその場で購入できる仕組みで、来店者は注文を待つ間や、コーヒーを飲みながら手に取っていた。

本の調達は神田神保町を拠点とする移動書店のハリ書房、販売・会計はSENDAI-Kaffeeが協力した。

異なる分野を学ぶ学生との交流は刺激になったように、渡辺ゼミ生が「日本語に対する関心が深まった」と語った一方で、齋藤ゼミ生は「今後は自分の専門分野以外にも視野を広げたい」と話した。

渡辺教授は「実践的な学びの場となった。参加ゼミを増やし、継続的に開催したい」と総括した。

森本ゼミ 新百合ヶ丘で辻又産米PR 販売イベント開催 ゲームや展示も



多くの親子連れが訪れ、買い物やゲームを楽しんだ

経営学部の森本祥一ゼミ間、川崎市麻生区の商業施設「新百合ヶ丘エール」が11月18日から2日 施設「新百合ヶ丘エール」で、新潟県産米の販売イベントを開催した。

森本ゼミでは、新潟県の集落活性化事業を受託した2014年以降、南魚沼市辻又集落の人たちと交流を重ねながら、活動を行ってきた。特に力を注いでいるのが地域名産の米のブランド化だ。ゼミ生が「ほたしずく」と命名し、ブランドロゴやパッケージデザインを作成。首都圏で販売するなど、魅力を伝えてきた。

今回は「しんゆり秋の米まつり」と銘打ち、新米と、その玄米を使ったゲーム「お米びつたりチャレンジャー」を楽しむ来場者

心を高めてもらおうと、ゼミ生考案のゲームブースも。制限時間内にもみ殻を取る「もみ殻早剥きチャレンジ」、1合分の米を分量で測る「お米びつたりチャレンジ」など、いずれも子どもたちでにぎわった。会場には集落やゼミの活動を紹介するパネルも展示。中原さんは「多くの方に辻又集落や『ほたしずく』を知ってもらえることができ、うれしい」と達成感をにじませた。

森本教授は、「学んだ知識をもとに販売や集客のアイデアを考え、ビジネスとして企画をやり遂げた経験は、経営学部の学生として大きな学びになったと思う」と話した。

国際コミュニケーション学部日本語学科

学生がパンフレット作成 オープンキャンパスで配布



国際コミュニケーション学部日本語学科の学生が、学科を紹介するパンフレットを作成し、オープンキャンパスに訪れた高校生らに配布した。

作成したのは、足立光さん(3年次)、泉菜緒さん(3年次)、石橋子さん(3年次)、石橋

ロから直接学べる協力講座、資格取得などについて、工夫を凝らしたデザインと分かりやすい文章で伝えている。

日本語学科では、学生ならではの視点から、学

今年度「専大日語」学生広報委員会を立ち上げた。呼び掛けに応じ、学生約30人が委員会に登録。活動の第1弾として、「専大日語のパンフレット」を計画し、パンフレットのデザインを募集したところ、3人が応募。完成した3種類のパンフレットは7月のオープンキャンパスで配布し、人気を集めた。

足立さんは「留学や協力講座など、入学前自分自身を知っておきたかったことなどを中心に伝えた。専大日語でしかできない学びがあることを、このパンフレットをきっかけに、多くの高校生に知ってもらえたら」と話す。

国際コミュニケーション学部の小林貴徳准教授が、名古屋市の東山動植物園にオープンしたジャガーの飼育施設「ジャガー舎」の展示の監修を担当した。

ジャガーはアメリカ大陸に生息する大型のネコ科の動物。小林准教授はラテンアメリカの民族学、文化人類学が専門で、今回新設された展示パネルでは、メキシコでは古来、ジャガーが崇拜の対象とされ、一部地域では現在もジャガーにちなんだ祭りが盛んに行われていることなどを記した。名古屋市とメキシコ市は姉妹都市であり、ジャガー舎にはメキシコをイメージす玉を割り、完成を祝った。

小林准教授は2月17日(土)に、東山動植物園でメキシコにジャガーに関する講演会を行う。

東山動植物園 ジャガー舎の展示を監修



3年がかりの整備が完了し、10月24日から一般公開が始まった。